

ふくしま

再生 短信

試験栽培からの十二年を想う < 続編 >

水は生命 真野川上流と生きる

いのち

2024年元旦、能登半島地震で新年が明けた。本号が「お米収穫・続

編」として真野川上流から「宗夫田圃」への水路を確保するご苦労の日々

を菅野宗夫さんに語っていただくとしていた矢先の出来事だった。前号のお米の収穫に向けての日々(写真1)に先立ち、2015年・2019年と二度の真野川上流の氾濫に見舞われていた(写真2と3)。

と常に思っています。自然の生態系で生きていく私たちにとっては、やはり農業はその中核であり重要なと思っています。(後略)

人間の知恵による自然との共生、能登半島地震で明けた2024年の今こそ重く受け止めたい。(写真1は菅野宗夫さん提供、他の写真&文責・若林一平)

能登半島地震と「珠洲原発」
能登半島地震の震源地近くに建設が計画されていた「珠洲(すず)原発」。建設予定地だった石川県珠洲市高屋町は、今回の地震で住宅の大半が壊れ、陸路も海路も閉ざされて孤立状態に陥った。もし原発が実現していたら、重大事故が起きて住民の避難がより困難になった可能性もあった。建設を阻止したのは、住民らの長年にわたる根強い反対運動だった。・・・1975年に持ち上がった計画は、住民の反対運動と、それを切り崩す電力会社側との28年に及ぶ「闘争」の末、2003年12月に凍結された。(東京新聞・2024年1月23日付夕刊)



2019



4



2023

みなさまへ
宗夫です。
自然の恵みの一方で自然の危険と厳しさはつねにあります。人間の智慧によって自然といかにか共生していくのかがいま問われています。



2015/9/20

2015

「この度の台風災害については大変ご心配をおかけしました。また、皆さん方遠方より駆けつけて、災害にあった稲穂の刈取りなどの作業誠に有難うございました。全体の収穫量は、災害により「割程度減収に

た。2019年10月12〜13日、超大型の台風19号が日本列島を襲った。真野川上流の氾濫で土石流が宗夫田圃の一部にも流入(写真4)。緊急の対応を終えた10月20日に再生の会宛に宗夫さんからメールが届いた。

なる見込みです。自然の恵みと背中合わせに自然の脅威がある